

### 研究分担課題

地域連携を促進するために解決すべきメンタルヘルスケアについての研究

研究代表者 猪狩 英俊 千葉大学医学部附属病院・感染制御部長 准教授  
研究協力者 田代 萌 千葉大学医学部附属病院 感染制御部 技術補佐員 カウンセラー

#### 研究要旨：

近年ではHIV感染者に共通したメンタルヘルス上の問題とそれに伴う心理的な支援が議論されるようになってきた。本院感染症内科では、非常勤の心理士が複数名勤務しており、HIV感染者の心理面のサポートに当たっている。しかし、本院感染症内科に通院しているHIV患者のメンタルヘルスの現状についての調査は乏しい。本研究では、HIV患者のコーピングに注目したい。コーピングとは「外的・内的要求やそれらの間の葛藤を克服し、耐え、軽減するためになされる、認知的・行動的努力」として定義される。また、個々のコーピングの方法はコーピング・ストラテジー、個人内のコーピング・ストラテジーの使用パターンはコーピング・スタイルと呼ばれている。ここには嫌悪的な出来事を受けた際にそれをなんとかして解決しようとする「問題解決」、それをいい方向へ考え直すことや、自分にとってプラスになることを探そうとする「認知的再解釈」、その時の気持ちを表情や態度に表す「感情表出」、人とかかわりの中で自分の気持ちを落ち着けようとする「情緒的サポート希求」の4下位尺度が抽出された。どのようなコーピングを選ぶ傾向があるかを医療者側が把握することにより、患者が受け取りやすい適切な支援を考える一助となる可能性がある。

以上から、本研究では本院感染症内科のメンタルヘルスについて現状を把握すること、そしてストレス・コーピングの傾向について把握することを目的とする。

主任研究者 猪狩英俊

研究協力者 田代 萌、石川雅子(メンタルヘルス)

#### A. 研究目的

HIV感染者のコーピング・ストラテジーについて探索的に検討する。それによってHIV感染者のコーピングの傾向を把握する一助となることが考えられる。また、不安や抑うつに関しても測定を行い、現在の精神状態の把握にもつとめ、どのような援助が今後有効となりうるかを検討していく。

#### B. 研究方法

本研究ではHIV感染者の患者にストレス・コーピングの特性的な傾向を把握することを目的に質問紙調査を行う。また、現在の気分状態を把握するために抑うつと不安の質問紙も実施する。

#### C. 研究結果

2020年4月より、外来に通院しているHIV感染者の中で同意をとれた方を対象に調査を開始している。目標件数は100名ほどとし、実施期間は3ヶ月を予定している。そのため、報告できる結果は

まだない。

#### D. 考察 E 結論

質問紙調査の集計ののち、結果を踏まえ考察を行う。

#### F 健康危険情報

本研究では介入研究ではないため特記すべき健康危険情報はありません。

#### G 研究発表

- 1 論文発表 なし
- 2 学会発表 なし
- 3 その他 なし

#### H 知的財産権の出願・登録状況

現時点では特許取得、実用新案登録の予定はありません。